# 多様体論

## 竹田航太

#### 2021年7月3日

# 目次

柳		
5	リーマン計量	4
4.1	多様体上の積分 積分	4
3	交代 k 形式	3
2	ベクトル場	2
1	多様体	1

※書きかけ.

現代数学を研究する上で外せない多様体論について、基礎的な定義や結果をまとめる. 備 忘録的なものなので定義が抜けていることがある.

# 1 多様体

**Definition 1.1.** 位相空間 M が n 次元多様体 (mfd)  $\stackrel{def}{\longleftrightarrow}$ 

- (1) M lt Hausdorff.
- (2)  $\forall x \in M, \exists U \colon open \ nbd \ of \ x \ on \ M \ s.t. \ U \underset{homeo}{\sim} \exists V \subset \mathbb{R}^n$

Theorem 1.2. n 次元 mfd M が単連結とする. このとき以下は同値.

- (1) M は距離つけ可能.
- (2) M は  $\sigma$ -コンパクト.

- (3) M はパラコンパクト.
- (4) M は第2可算.

#### 2 ベクトル場

**Definition 2.1.** M: n 次元  $C^{\infty}$  多様体に対して, $X: M \to \mathbb{R}^n$  が M 上の vector field (ベクトル場)

 $\stackrel{def}{\Leftrightarrow} X: M \ni x \mapsto X(x) \in T_x M$ 

また,M上の $C^{\infty}$ ベクトル場全体を $\mathfrak{X}^{\infty}(M)$ とかく.

Remark 2.2. n 次元多様体 M 上のベクトル場 X と  $C^{\infty}$  局所座標  $(U, \phi)$  から誘導される  $\phi(U) \subset \mathbb{R}^n$  上のベクトル場  $T\phi(X): \phi(U) \to \mathbb{R}^n$  を次で定めることができる.  $x \in U$  に対して,

$$T\phi(X)(\phi(x)) := T_x\phi(X(x))$$

ただし、 $T_x \phi: T_x M \ni [c]_x \mapsto (\phi \circ c(0)) \in \mathbb{R}^n$ 

**Definition 2.3** (括弧積).  $f \in C^{\infty}(M)$  と  $X \in \mathfrak{X}^{\infty}$  に対して, 「f の  $x \in M$  での X(x) 方向の 微分 X(x) f」を以下のように定義できる.

任意の X(x) の積分曲線  $c:(-\epsilon,\epsilon)\to M$  に対して  $X(x)f=f\frac{d}{dt}(f\circ c)|_{t=0}$  と定めると  $Xf\in C^\infty(M)$  であり、これは c の取り方に依らない。

このベクトル場による微分を用いてベクトル場同士の括弧積を定める. $X,Y\in\mathfrak{X}^\infty(M)$  s.t.  $\forall C^\infty$ 

$${X,Y}f = X(Yf) - Y(Xf)$$

**Definition 2.4** (接東の切断).  $\Gamma: M \to TM$  が接東 TM の切断とは  $\pi_M \circ \Gamma^{-1} = Id_M$  が成り立つこと. ただし、接東  $TM = \{(x,v); x \in M, v \in T_xM\}$  で与えられる.

またベクトル場 X に対し、 $\Gamma_X: M \ni x \mapsto (x, X(x)) \in TM$  は切断を定める.

**Proposition 2.5** (ベクトル場と切断は 1:1). 切断  $\Gamma: M \to TM$  に対して、 $\exists X_{\Gamma} \in \mathfrak{X}^{\infty}$  s.t.  $\Gamma(x) = (x, X_{\Gamma}(x))$ 

**Definition 2.6** (flow). 積分曲線: 区間  $I \subset \mathbb{R}, c: I \to M; C^{\infty}$  に対し

$$\frac{dc}{dt}(t) := [s \mapsto c(t+s)]_{c(t)} \in T_{c(t)}M$$

で t における速度ベクトルを定める.  $X \in \mathfrak{X}^\infty$  に対して,  $c:I \to M; C^\infty$  が X の積分曲線とは

$$\frac{dc}{dt}(t) = X(c(t)) \ \forall t \in I$$

が成り立つこと.

 $C^{\infty}$  flow: 0 を含む開区間  $I \subset \mathbb{R}$  と開集合  $U \subset M$  に対して, $\Phi: I \times U \to M$  が X の生成する  $C^{\infty}$  local flow とは以下が成り立つこと.

- (1)  $\Phi: C^{\infty}$
- (2)  $\forall x \in U, \Phi(0, x) = x$
- (3)  $t \mapsto \Phi(t,x)$  は X の積分曲線.

特に  $I = \mathbb{R}, U = M$  のとき  $C^{\infty}$  (global) flow と呼ばれる.

 $flow: \Phi: \mathbb{R} \times M \to M$  が M 上の flow とは以下が成り立つこと.

- (1)  $\Phi(0,x) = x$
- (2)  $\forall t, s \in \mathbb{R}, \forall x \in M, \Phi(t, \Phi(s, x)) \Phi(t + s, x)$

### 3 交代 k 形式

**Definition 3.1** (交代 k 形式). V をベクトル空間とする.  $k \geq$  として,  $\alpha: V^k \to \mathbb{R}$  が交代 k 形式 (k-form) とは以下を満たすこと.

- (1)  $\alpha$  は多重線形 (multi-linear).
- (2)  $\alpha$  は交代的 (anti-symmetric).

また,  $^k$  $^k$  $^*$ ={V上の $^k$ 形式全体}とかく.

**Definition 3.2** (ウェッジ積).  $\alpha \in {}^k V^*, \beta \in {}^l V^*$  に対して

$$\alpha \wedge \beta(v_1, \dots, v_k, v_{k+1}, \dots, v_{k+l}) = \frac{1}{k! l!} \sum_{\sigma \in S_{k+l}} sgn(\sigma) \alpha(v_{\sigma(1)}, \dots, v_{\sigma(k)}) \beta(v_{\sigma(k+1)}, \dots, v_{\sigma(k+l)})$$

により  $\alpha \wedge \beta \in {}^{k+l}V^*$  を定める.

Remark 3.3.  $\alpha_1, \alpha_2, \alpha \in {}^kV^*, \beta \in {}^lV^*, \gamma \in {}^mV^*, c \in \mathbb{C}$  に対して以下が成り立つ.

- (1)  $(\alpha_1 + \alpha_2) \wedge \beta = \alpha_1 \wedge \beta + \alpha_2 \wedge \beta$
- (2)  $c(\alpha \wedge \beta) = (c\alpha) \wedge \beta + \alpha \wedge \beta$
- (3)  $\beta \wedge \alpha = (-1)^{kl} (\alpha \wedge \beta)$
- (4)  $(\alpha \wedge \beta) \wedge \gamma = \alpha \wedge (\beta \wedge \gamma)$

また,  $\alpha_i \in {}^{k_i}V^*$   $(i=1,\cdots,d)$  とすると,  $\alpha_1 \wedge \cdots \wedge \alpha_d$  が自然に定まる.

**Definition 3.4** (differential k-form). 余接空間 (cotangent space)  $T_x^*M = (T_xM)^*$  に対して,

 $\stackrel{k}{\wedge} T^*M = \{(x,\alpha); x \in M, \alpha \in \stackrel{k}{\wedge} (T^*_xM)\}$  とかく.  $\Omega^k = \{(x,\alpha) \in \stackrel{k}{\wedge} T^*M; \alpha : C^\infty\} \ \text{と定め, } \ \texttt{この元を differential $k$-form $k$-$ 

**Proposition 3.5** (外微分).  $k \geq 0, \alpha \in \Omega^k(M)$  に対して次を満たす  $d\alpha \in \Omega^{k+1}(M)$  が存在する.  $X_0, \dots, X_k \in \mathfrak{X}^{\infty}(M)$  に対し,

$$d\alpha(X_0, \dots, X_k) = \sum_{i=0}^k (-1)^i X_i(\alpha(X_0, \dots, \hat{X}_i, \dots, X_k)) + \sum_{0 \le l < m \le k} (-1)^{l+m} \alpha(\{X_l, X_m\}, X_0, \dots, \hat{X}_l, \dots, \hat{X}_m, \dots, X_k)$$

ただし、 $\hat{X}_i$  は  $X_i$  を除くという意味. この  $\alpha \mapsto d\alpha$  の操作を外微分という.

**Proposition 3.6.**  $\alpha \in \Omega^k(M), (U, \phi) : C^{\infty}loc. coord. \succeq \bigcup$ 

$$(\phi^{-1})^*\alpha = \sum_{1 < i_1 < \dots < i_k < n} f_{i_1,\dots,i_k} dy_{i_1} \wedge \dots \wedge dy_{i_k}$$

とかけているとき,  $(\phi^{-1})^*d\alpha$  は次のように表せる.

$$(\phi^{-1})^* d\alpha = \sum_{1 < i_1 < \dots < i_k < n} \sum_{l=1}^n \frac{\partial f_{i_1, \dots, i_k}}{\partial y_l} dy_{i_1} \wedge \dots \wedge dy_{i_k}$$

Proposition 3.7.  $M_1, M_2: C^{\infty}$  mfd,  $F: M_1 \to M_2; C^{\infty}$  とする.  $\alpha \in \Omega^k(M)$  に対して以下が成り立つ.

$$F^*(d\alpha) = d(F^*\alpha)$$

# 4 多様体上の積分

Definition 4.1 (向き).

**Definition 4.2** (volume form).

#### 4.1 積分

# 5 リーマン計量

**Definition 5.1** (リーマン計量).